

第1回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和4年7月7日（木） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所東庁舎会議室

■出席委員 15名（50音順）

朝日 ちさと委員、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、尾中 信夫委員、
勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、春田 祐子委員、
福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員、宮本 太郎委員、鷲尾 和彦委員

■欠席委員 0名

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、池田主任、満井
主事

■傍聴者 2名

■議事日程

開会

- 1 市長挨拶
- 2 委嘱状の交付
- 3 委員の紹介等
- 4 多摩市総合計画審議会条例について
- 5 会長、副会長の選出
- 6 諮問
- 7 会議運営に関する事項の確認について
- 8 「(仮称) 第六次多摩市総合計画」改定方針について
- 9 「(仮称) 第六次多摩市総合計画」の進め方等について
- 10 その他

閉会

会 議 録 (要旨)

【開会】

以降、次第6「諮問」まで事務局により進行。

【1 市長挨拶】

阿部市長より開会の挨拶。

【2 委嘱状の交付】

各委員に配布した委嘱状の確認を行い、内容について了承された。

【3 委員の紹介等】

事務局より資料1に基づき各委員を紹介し、各委員より挨拶。

【4 多摩市総合計画審議会条例について】

事務局より資料2について説明。

事務局職員の紹介。

【5 会長、副会長の選出】

自薦または他薦がなかったため、会長については事務局より朝日委員を提案、副会長については会長より宮本委員を提案し、異議無く了承された。

朝日会長、宮本副会長より就任の挨拶。

【6 諮問】

市長より諮問文書を会長に手渡し。

【7 会議運営に関する事項の確認について】

事務局より資料4について説明。

【8 改定方針について】

事務局より資料5-1、5-2について説明。

会長 計画期間について、令和8年から基本計画の改定を開始するとのことだが、この作り方については、これまでの策定方法と同様か。

事務局 これまで基本構想は概ね20年、基本計画は概ね10年を計画期間とし、4年ごとに基本計画を改定してきた。次期基本構想は、刻々と変わる時代に対応して、基本構想の期間自体も10年とし、折り返し前の令和8年度から基本計画の改定に入る予定である。

委員 基本計画の実行性や、軸がぶれていないかを確認する審議会等はあるか？
事務局 令和8年度に改めて総合計画審議会を立ち上げて、見直しをかけ、後期の基本計画に落とし込んでいく予定である。
ただし、評価の仕方等は時代の変化に応じたものにしていきたいと考えている。

【9 「(仮称)第六次多摩市総合計画」の進め方等について】

事務局より資料6、7について説明。

委員 資料7の「基本構想の構成(案)」の「将来人口」には○印がついていないが、「将来人口」を基本構想に入れ込むことは想定されているか。
事務局 「将来人口」については、基本計画に組み込んでいきたいと考えている。
会長 基本構想の構成については、次回議論するということだが、意見がある場合には前もって質問をしておくという進め方で良いか。
事務局 タイムな策定スケジュールであることも踏まえ、事前にご意見をいただくなど進め方の工夫ができればと考えている。
委員 資料7の赤丸が付いている部分について、変更する箇所とその理由を補足説明していただきたい。
事務局 今回、基本構想を概ね20年から10年に見直す中での「背景・位置づけ等」を冒頭で示す必要があるため追加している。また、これまでも「まちづくりの視点」を更新してきているところではあるが、「横断的な取組」がこれまで以上に必要となってきたことから赤丸で示している。
背景・位置づけについては、近年、想定しないような事態が起き続けており、不透明で不確実な時代の変化を臨むには、20年の期間だと長すぎるため、基本構想を10年に見直す必要性を具体的に示していきたいと考えている。
会長 「背景・位置づけ」と基本計画のつながりが重要だと考えている。
委員 今後、多摩市への人口流入を考えた時には差別化していかないといけないと考えている。明石市や流山市のように特定の分野に集中した打ち出し方をしていく方法もあると思うが、多摩市として何を売りをしていくかを明確にしてみてもどうか？
市長 例示があった、明石市や流山市については子育て分野に集中して先行投資をしており、財政力を豊かにすることで持続可能なまちづくりを実現しようとしている。明石市は中核市規模の自治体のため、自治体としてできること、できないことなどの違いもある。全国的な人口減少の中で他の地域との人口の奪い合いをしてもしょうがないと思っており、南多摩、あるいは多摩地域全体が共に共生社会として生き抜いていくべきだとも思っている。そうした前提の上で、多摩市の尖った点については打ち出していくべきだと考えている。
委員 基本構想と基本計画のすみ分けがある中で、基本構想と基本計画のつながりが重要だと思っているところだが、基本構想の議論の中で具体的な視点での議論はするか？

事務局 これまでの基本構想でいう「まちづくりの視点」の議題で議論できればと思う。
委員 今年度から都市計画マスタープランの改定が始まっているところであるが、これらの個別計画をまとめる基本構想・計画であるべきだと考えている。
また、机上で議論するのも重要であるが、フィールドワークとして多摩市の全景を見られるチャンスがあればと思っている。
会長 まちの変化について、共通認識を得ておきたいと考えている。
事務局 委員の皆様がよろしければ、そういった場を準備することは可能である。

【10 その他】

今後の日程（案）について、事務局より資料8について説明。

【閉会】